

令和7年度

運営に関する計画
(最終評価)



大阪市立五条幼稚園

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- コロナ禍が明け、子どもたちは園内外で思い切り遊ぶ姿が見られるようになった。昨年度より、改めて園内外の環境を見直し、より安心・安全に遊べる環境を整えていくことを最優先課題として取り組んでいる。また、人との関わりが希薄化した生活を送ってきた実態を踏まえ、同年齢、異年齢での多様に関わる機会をもつ必要性がある。全教職員で全園児の成長を見守り、促していくために、教職員がチームとなり、連携しながら、幼児一人一人の自己肯定感を高めていきたいと考える。
- 様々な個性をもつ子どもたちが共に生活していく中では、自分らしさを発揮し、主体的に活動する力や柔軟性が求められている。教師は個々の実態に応じた関わり方や援助をするために、深い幼児理解を基盤に教育内容の工夫をしていかなければならない。また、生活習慣の自立において戸惑っている保護者の実態やニーズに応えるため、幼稚園での子どもの育ちを伝え、保護者が子育ての喜びを感じながら、幼稚園と共に成長を喜び合えるように家庭と連携していきたいと考える。
- コロナ禍で希薄になっていた地域とのつながりを再度見直すと共に、時代に応じたつながり方を工夫していかなければならない。そして、子どもたちは様々な人と関わる中で地域の大切な一員であることを感じてほしい。また、質の高い幼稚園教育を保護者や地域へ分かりやすく発信するために、具体的な実践を通して子どもたちの姿や育ちを丁寧に伝えていくことで、地域の公立幼稚園としての役割を果たしていきたいと考える。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「子どもは、喜んで登園し、集団生活の中で充実感を味わっている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、発達段階に応じた教育内容をすすめるために、教職員の資質向上を図っている」
 - ・「子どもは、健康な生活に関心をもち、体を十分に動かし、生活に必要な活動を自分でしようとしている」

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信し、連携している」

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

園の年度目標

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、子どもたちが安心し、安全に遊べる環境を整えている」
 - ・「子どもは、喜んで登園し、様々な人との関わりを喜んでいる」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

園の年度目標

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、発達段階に応じた教育内容をすすめるために、教職員の資質向上を図っている」
 - ・「子どもは、健康な生活に関心を持ち、生活に必要な活動を自分でしようとしている」

【学びを支える教育環境の充実】

園の年度目標

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、近隣の学校園等と関わりをもてるように連携を図っている」
 - ・「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信している」

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・「安全・安心な教育の推進」について、保護者アンケートの肯定的な回答は99%であった。環境の整備及び再構成を積み重ねると同時に、様々な人との関わりを通して子どもも保護者も安心して幼稚園生活を送ることにつながった。また、日本の伝統的な文化等や四季折々の自然を保育に取り入れることで、豊かな感性が育まれた。
- ・「未来を切り拓く学力・体力の向上」について、保護者アンケートの肯定的な回答は98%であった。日々綿密な保育計画をたて、ワンチームとして教育を進めるため、個と集団の育ちを意識したねらいを明確にし、実践と反省を繰り返しながら取り組んだ。その結果、教師一人一人が自身の保育を振り返り、成果と課題を明日の保育へと生かし、資質向上を図ることができた。また、子どもたちの基本的な生活習慣について、発達段階や実態に応じた教材を用いた保健指導を積み重ねた。さらに保護者啓発を行うことで、健やかな生活習慣の定着につながった。
- ・「学びを支える教育環境の充実」について、保護者アンケートの肯定的な回答は99%であった。近隣の学校や地域の方への積極的な働きかけにより、つながりや信頼が深まり、自分の住む地域について愛着をもつ機会となった。また、子どもたちの様子を速やかに周知した。子どもと保護者が保育のねらいや遊びの過程、子どもの育ちを捉える視点を伝え続けたことで、成長を共に喜び合うことができた。教職員・保護者・地域が連携し、一体となって子どもたちの育ちを支えたことが、一人一人の自己充実につながったと考える。

大阪市立五条幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○ 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園は、子どもたちが安心し、安全に遊べる環境を整えている」 ・「子どもは、喜んで登園し、様々な人との関わりを喜んでている」 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>子どもたちが安心して園生活を送れるよう園内外の環境を見直し、常に改善を図り、安心・安全な環境を整えて、信頼される幼稚園を目指していく。</p> <hr/> <p>指標 ・毎日、怪我をした時の状況を教職員で共有し、子どもたちが安全に遊べる環境を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上、なかよしの部屋や階段下などの園内の空きスペースや、園庭や畑などの自然環境を見直す機会をもち、保育環境を整える。 	A
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>チーム保育の質の向上を図り、様々な人やものにふれ、親しむ機会をもち、自己肯定感の高まりにつなげる。</p> <hr/> <p>指標 ・月1回以上、季節の自然物や伝統文化にふれ、親しむ保育を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上、子どもたちの様子を伝え合う園内委員会で育ちを共有し、全職員で子どもたちのありのままの姿や成長を認め合いながら幼児理解の質の向上を図る。 ・月1回以上、クラス担任以外の教職員と関わる機会をもち。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○毎日、怪我をした時の状況を教職員でその都度共有することができた。</p> <p>通用門裏や土山、遊戯室など怪我が起こった場所の原因究明をすぐ行ない、その日のうちに環境を見直し改善した。園庭の遊具の場所も見直し、遊具を分散させることで遊びが重なることによる事故を未然に防ぎ、色分けをしたり表示をつけたり視覚的にわかりやすく整えることで出しやすく片付けしやすい環境づくりを行なった。日々教職員で情報を共有していることで、どの教職員も共通した声かけができた。また、毎月教職員で安全点検を実施し、園内外の環境を把握し見直すことで、子どもたちが安全に遊べる環境づくりを行なっている。</p> <p>○年12回、なかよしの部屋や階段下などの園内の空きスペースや、園庭や畑などの自然環境を見直す機会をもち、保育環境を整えることができた。</p> <p>なかよしの部屋のステージや1階階段の前の遊びの環境を作ったことで自然と学年クラス関係なく交流して遊ぶ機会になった。2学期以降は1階2階の空き教室で落ち着いて過ごせる環境を再構成したことで子どもの興味関心に合わせて活用でき、遊びの意欲や主体性を引き出すことができた。</p> <p>園庭や畑などの自然環境を見直し、保育環境を整えた。季節に応じた野菜を計画的に栽培し</p>

た。畑では芋や玉ねぎ、ジャガイモを育て、夏野菜・冬野菜をクラスごとに栽培し、子どもと収穫する喜びを感じることができた。クラスの野菜は栽培場所を遊びや生活動線の中に組み込む工夫をしたことで、登園時や外遊びの際に子どもが自然と気付く環境となり、野菜や草花の生長を楽しみにしたり、小さな変化に気付いたりする感性が育まれた。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、子どもたちが安心して、安全に遊べる環境を整えている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が98%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

取組内容②【2 豊かな心の育成】

○年17回、季節の自然物や伝統文化にふれ、親しむ保育を進めることができた。

4月チューリップやサクラ、5月こいのぼりや五月人形、6月アジサイや梅雨、7月七夕まつりやアサガオ、8月夏野菜の収穫、9月芋ほり、10月十五夜、11月ドングリや木の実、12月もみの木の飾り、凧あげ、1月コマ回しや羽子板、雪、2月節分遊び、冬野菜、3月ひな祭り、相撲など生活を通して季節感を感じ、日本の伝統文化を知る環境を整え、保育に取り入れた。季節の自然物や園庭の草花や木々の実りの変化に子ども自ら気付くようになり、「芋ほりできるかな?」「これ、いい匂いするよ」などと言葉で伝え合う豊かな感性が育まれた。保護者へも知らせる機会となるように五月人形やひな人形を飾ったり、七夕の大笹を立てたりして、タイミングよく保護者の興味関心を広げることができた。また、大阪場所を前にした伊勢ヶ浜部屋の力士とふれあうすもう会では、日本の国技を知り、相撲に親しみをもつ機会となり、豊かな心を育む貴重な直接体験となった。

○年12回、全園児の実態を共有する機会をもち、全職員で子どもたちのありのままの姿や成長を認め合うことで幼児理解の質の向上を図ることができた。

4月12月は個人懇談会を踏まえて、各クラスの子どもの実態や健康面について共有する機会をもった。5月6月7月9月11月12月1月には、特別支援教育の専門家に保育を見学してもらい、インクルーシブ教育のあり方や教師の指導方法などを具体的に教えていただいた。一人一人を多面的に捉え、全教職員で子どもたちのより豊かな育ちに向けた関わり方を丁寧に考えることで、個と集団の育ちを両面から分析し、保育の質の向上につながった。

○年12回、クラス担任以外の教職員と関わる機会を意図的に設定した。

4月5月、年度当初は園庭を中心に異年齢で遊ぶ機会をもったり、集会をしたりする中で、他の教職員の存在にも気付き、信頼感をもつことができた。9月10月11月2月は異年齢で手をつないで園外保育に行くことで安心して活動したり、運動会や生活発表会では担任以外の教職員と一緒に参加したりすることで安心して過ごすことができた。今では、子ども一人一人が安心・安全に過ごすことのできる自分の居場所を見つけ、幼稚園生活を送っている。チーム保育の重要性を感じ、教職員で成果を喜び合えた。

本園の保護者アンケートの結果により、「子どもは、喜んで登園し、様々な人との関わりを喜んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①

今後も、怪我の状況を共有することで、子どもが安心して過ごせる環境をその都度検討し、整えていく。そして、子どもが多様で安全なわくわく体験ができるような環境を整えていく。

取組内容②

機会をとらえ、日本の豊かな四季や伝統的な文化にふれ、親しむことができる環境や保育を工夫していく。また、教職員間で全園児の実態を共有し、チームで取り組むことが子ども一人一人の成長につながることを信じて、子ども一人一人を輝かせる保育を追求していく。

大阪市立五条幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 園の年度目標 ○ 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。 ・「幼稚園は、発達段階に応じた教育内容をすすめるために、教職員の資質向上を図っている」 ・「子どもは、健康な生活に関心をもち、生活に必要な活動を自分でしようとしている」	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 大阪市就学前教育カリキュラムを活用し、個と集団の育ちのために個々の発達段階や実態、興味関心に応じた教育内容を考え、教職員の資質向上を図る。 指標 ・毎日、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して週案や日々の保育案を作成し、個と集団の育ちを記録と分析し、明日の保育につなげる。 ・年5回以上、就学前教育カリキュラムを活用して園内研究保育を実施し、教員が互いの保育を見合う機会をもつ。 ・年2回以上実践記録を取り、教職員で討議を行う。	A
取組内容②【5 健やかな体の育成】 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でしようとする意欲を育むための指導を工夫する。 指標 ・月1回以上、視覚教材を使用し発達段階や実態に応じた保健指導を行う。 ・月1回以上、体や食育等に関する絵本の読み聞かせを行う。 ・学期に1回以上、保健指導の様子等を掲示し、保護者啓発を図る。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 ○毎日、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して週案や日々の保育案を作成し、個と集団の育ちを記録し反省と課題を明日の保育につなぐことができた。 幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、五条幼稚園の教育課程を基に週案や日案などの保育案を作成しながら、子どもの姿と育ちを記録してきた。日々欠かさず記録をすることで保育を振り返ることができ、発達段階に合った個と集団の両面から育ちを捉え、一人一人の育ちと集団の育ちにつながる保育内容を検討し、進めることができた。記録を振り返ると、幼児理解が深まると同時に、クラスの育ちの変化も分かり、教員自身の保育に向かう姿勢や考え方、価値観の変化が分かる。 ○年16回、就学前教育カリキュラムを活用して、園内研究保育を実施することができ、教員が互いの保育を見合う機会となった。 毎月の誕生会を園内研修に位置づけ、教員が互いの保育を見合う機会とした。司会担当の教員を中心に事前打合せをし、事後に反省会を行うことで、互いの保育について意見を出し合い、個と集団の育ちのためのチーム連携を学び、より質の高い保育を意識することができた。 5月10月1月に2年目教員の園内研究保育、9月に全クラスでの園内研究保育を実施し、大阪市総合教育センター教育指導員による指導を受けた。2年目教員は、教育指導員からの具体的な指導により、幼児理解の視点や教育的意図をもった働きかけや環境構成、客観的な捉え方などを学ぶことができた。また、全クラスでの園内研究保育では、教員同士で子どもたちを

中心に据えた話し合いを通して、互いに刺激を受けたり、客観的な視点からの指導を受けたりしたことで自身の保育を多面的に振り返ることができ、全教職員の資質向上へとつながった。

○年3回、実践記録を取り、教職員で討議を行い、学び合うことができた。

5月7月9月に実践記録を取り、子どもたちが遊びの中でどのような学びがあるのか討議を行った。具体的に子どもが遊びの中で何に興味をもち、どこに楽しさを感じ、何を学んでいるのか、記録をとって子どもの言動を考察し、どのような育ちがあるのか総合的に考察して読み取っていった。担任以外の教職員と討議することで、多様な視点から学びを読み取り、遊びの中の学びを見出すことができた。検討会は教職員自身の幼児理解や資質向上につながっている。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、発達段階に応じた教育内容をすすめるために、教職員の資質向上を図っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

取組内容②【5 健やかな体の育成】

○年12回、視覚教材を使用し発達段階や実態に応じた保健指導を実施することができた。

発育測定や体重測定、学級活動の時間を活用し、基本的な生活習慣が身につくように、視覚教材を用いたり、ICTによるパワーポイントを使用したりして指導を行った。手洗いうがい、歯みがき、食物の栄養、けがの予防、熱中症についてなど子どもたちの発達段階や興味関心、季節に合った内容を考え、教材を工夫することで子どもたちは興味深く話を聞くことができた。保健指導が一過性で終わることがないように、担任との連携を大切に、日々の生活の中で手洗いうがいや着替え、排泄、食事など生活に必要な行動を自分でしようとする主体性を育てるよう個別に声をかけ、励ました。日々の積み重ねから少しずつ習慣化し、主体的に行動できるようになってきている。

○年12回、計画通りに体や食育等に関する絵本の読み聞かせをすることができた。

絵本を通して知らせることで、自分の体に興味をもち大切にすきっかけになってほしいと考え、生活習慣に係る絵本や体の絵本、食育に関する絵本を季節や学年に合わせて選び、読み聞かせを継続して行った。月に1度絵本を読むことで、毎月楽しみにする子どもの姿もみられ、興味関心をもつきっかけとなった。子どもたちの身近な野菜やお弁当、果物の絵本を読むと食に関する興味関心が深まり、自分の生活と結びつけて考える力が育まれた。

○年4回、保健指導の様子等を掲示し、保護者啓発を図ることができた。

保健指導の様子や教材の掲示を降園時や子ども展覧会時に、写真を掲示したり、実際使用している教材を展示したりして発信した。多くの保護者が「子どもが話していたのはこれだったんですね」と、イメージをもって理解共感していただくことができた。幼稚園での取り組みを知ってもらうことで家庭でも健康な生活習慣を意識するきっかけとなり効果的であった。

本園の保護者アンケートの結果により、「子どもは、健康な生活に関心をもち、生活に必要な活動を自分でしようとしている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が97%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①

引き続き幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用しながら立案し、子どもの姿を読み取り記録していき、子どもの実態に応じた支援を教職員間で話し合いながら、教職員一人一人の資質向上を図っていく。

取組内容②

引き続き健康的な良習慣を定着できるよう、その時の子どもの課題に応じた視覚教材を工夫したり、ICTを活用したりして保健指導を行い、保護者啓発の方法も工夫していく。

大阪市立五条幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○ 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園は、近隣の学校園等と関わりをもてるように連携を図っている」 ・「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信している」 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】</p> <p>近隣学校園や地域と連携する中で、様々な人との関わりを喜び、地域とのつながりを深め、親しみをもてるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上、近隣の学校園等と交流する機会をもち、交流内容を工夫する。 ・年3回以上、地域の人々や身近な施設について知る機会をもち、保育に活用する。 	A
<p>取組内容②【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】</p> <p>家庭、地域へ向けて幼稚園教育の役割と意義を発信し、重要性の理解を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回以上、リアルタイムで子どもの姿を写真掲示する。 ・月1回以上、園のHPを更新する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】</p> <p>○年8回、近隣の学校園等と交流する機会をもち、交流内容を工夫することができた。</p> <p>5月、11月、夕陽丘高校に出掛け、学校の施設を知り、庭で自然探索をして遊ぶことを楽しんだ。さらに、音楽鑑賞会に招待され、吹奏楽の美しい演奏を聴く直接体験ができた。幼児が楽しめるように内容や曲を工夫してくださり、高校生と一体となって楽しい時間を過ごす感動体験となった。</p> <p>6月、7月、2次避難先である上宮学園と連携し、保護者への引き渡し訓練を実施した。教職員間で綿密な連携を図り、互いに顔を覚えることで、子どもや保護者の安心へとつなげた。</p> <p>10月、大阪市立幼稚園音楽会で一緒に歌う大江幼稚園、生魂幼稚園の5歳児を五条幼稚園に招き、一緒に歌う機会を設けた。一緒に歌うだけでなく、園内を案内したり、3園の共通経験であるリレーをしたりと、交流内容を工夫したことで地域に住む他の友達の存在を知り、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができ、心をつなげて参加する音楽会へとつながる効果的な交流となった。</p> <p>11月、職場体験にきた大阪市立夕陽丘中学校の生徒と一緒に遊んだり、絵本を読んでもらったりしたこと子どもたちもお兄さんお姉さんの優しさにふれて安心し、甘えたり頼ったりと、進んで関わろうとする力が育った。</p> <p>2月、五条小学校、桃陽小学校との交流では、事前に小学校の先生方と打ち合わせをして連携を図っていたことで、交流内容が充実した。1年生と身近にふれあえるように、ペアづくりをし、教科書を活用しながら音読を聞いたり、タブレットを使ったゲームを教えてもらったりした。授業後には、子どもが1年生に質問する時間をつくってもらい、応答性があるやりとりもできた。また、小学校内を探検し、いろいろな場所を知ったことで、不安も解消され、安心感へとつながり、入学することへの期待につながった。</p>

○年16回、地域の人々や身近な施設について知る機会をもち、保育に活用できた。

5月、石ヶ辻公園、天王寺消防署を目的地とし、地域散歩に出かけた。事前保育では、地域に親しみをもつことができるように、施設や場所を知らせたり、地域の方と挨拶を交わしたりすることを大切にた。教師や友達と共有することでより地域を身近に感じる心が育まれた。

5月、園外保育で天王寺動物園に出掛けた。5歳児は、大阪のシンボルでもあるあべのハルカスや通天閣をみんなで見たことが共通のイメージとなり、主体的な遊びへとつながった。クラスで協力して大きなあべのハルカスや通天閣をつくったことで、より地域に愛着を深め、運動会の競技にも取り入れ、自分の住む地域に親しみをもつことができた。

10月、四天王寺を訪れると、地域の歴史ある建物に興味関心をもち、じっくり見たり、気付いたりしたことを教師や友達と伝え合うことができた。さらに経験したことを言葉や体、絵、作品など、様々な方法で自分なりにのびのびと表現することを楽しむことができた。

4月5月6月9月10月11月12月に桃丘会館を訪問し、地域の方々とふれ合った。その季節に合うプレゼントを子どもと考えてつくり、手渡したり、会話を楽しんだり、歌や手遊びしたりするなど交流内容を工夫し、地域の方に親しみをもつことができた。

2月に天王寺図書館の方が、絵本の読み聞かせをしてくださった。大型絵本や、組木を使ったお話、言葉遊びなど、様々な教材を使って読み聞かせを工夫してくださり、子どもたちも興味をもち、集中して聞く姿が見られた。

また、今年度は天王寺区制100周年であり、区内の市立幼稚園5園が様々な形で区役所と連携を図り、携わることができた。7月には区役所内に区内の市立幼稚園のギャラリーを展示してもらい、地域の方に知ってもらう機会となった。9月大阪・関西万博、10月天王寺区民まつりの舞台に5歳児が立ち、大勢の人の前で歌を披露した。大阪・関西万博は地域の魅力発見ツアーの天王寺区のイベントの舞台であった。世界的な万博という貴重な場に天王寺区の代表として選んでいただき、とても光栄なことであった。子どもたちにとっても生涯忘れることはない経験となり、天王寺区という自分の住む地域への誇りをもつきっかけになった。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、近隣の学校園等と関わりをもてるように連携を図っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が98%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

取組内容②【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】

○年25回、普段の遊びや行事での子どもの育ちを写真掲示で発信した。

クラスでの主体的な遊びの姿や、行事での姿など、子どもの表情や育ちが分かりやすく伝わるように、写真掲示を活用して保護者に伝えた。写真で伝えることで、言葉だけでは伝わりにくい子どもの実際の姿と共に、育ちを発信することができた。また、リアルタイムで知らせることで、子どもが写真を見ながら保護者に自分の言葉で伝えたり、教師が写真を元に保護者に育ちを知らせたりするなど、その時の子どもの思いや学び、育ちなどを、子ども・保護者・教師で共有することができた。

○年32回、園のHPで教育発信した。

行事での子どもの姿を写真と共にHPに掲載した。実際の子どもの姿を通した遊びの中の学びや育ちについて、保護者や地域など、園内外に幼稚園の教育内容を知らせる機会となった。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①

積極的に交流の機会をもてるように近隣の学校等に働きかけ、内容も充実できるように幼稚園教育の重要性を語り、連携を図る。

取組内容②

引き続き保護者や地域に、子どもたちの育ちをリアルタイムで分かりやすく伝える工夫をする。更新頻度が不定期になっているため、定期的に更新し、より園の教育アピールとなるようにHPを活用していく。

